

ポイント解説 豊臣秀吉の政治と外交

戦国時代もいよいよ終末期に入り、天下統一の動きがでてきました。最初にそれを実行したのは、**織田信長**でしたが、統一過程で**明智光秀**にそむかれて本能寺で敗死しました。この政変を**本能寺の変(1582)**といいます。信長は、伝統的な秩序や権威を否定する一方、城下町に**楽市楽座**を命じてその発展をはかり、**関所**を廃止して物資の輸送や軍事行動の円滑化をはかりました。

織田信長の後継者としての地位を固めていった**豊臣秀吉**は、**石山本願寺**の跡に**大坂城**を築き、全国統一に乗り出しました。**1585年**に朝廷から**関白**に任ぜられ、翌年には**太政大臣**となって、**豊臣**の姓を与えられました。**1588年**には京都に新築した**聚楽第**に**後陽成天皇**を迎え、諸大名に対して、天皇と秀吉への忠誠を誓わせました。この間、九州や関東に**惣無事令**を出して諸大名に停戦を呼びかけ、抵抗した九州の**島津義弘**を1587年に制圧し、1590年には関東の**北条氏政**を滅ぼすとともに、**伊達政宗**らを屈服させて奥州を平定し、全国統一を実現しました。

豊臣政権の事業の中で、後世にもっとも大きな影響を与えたものは**太閤検地**と**刀狩**です。信長までの大名の検地がおもに農民側からの報告である**指出検地**であったのに対して、秀吉が実施した検地は、耕地の面積を調査し、田畑(屋敷)ごとに等級を定めて**石盛**をし、土地の生産力を米の生産量(**石高**)であらわし、土地の直接の耕作者を**検地帳**(水帳)に登録し、**一地一作人の原則**で耕地の保有者を定めるというものでした。秀吉のこの政策を**太閤検地**といい、また**貫高制**などが**石高制**に改められたことから「**天正石直し**」ともいわれています。太閤検地によって**作合**とよばれる農民の中間搾取が否定され、**荘園**が消滅しました。しかし、全国の土地の掌握が徹底されたうえに重い年貢がかけられたので1590年には**大崎・葛西一揆**などの検地反対一揆がおきています。

また、一揆を防止し、農民を耕作に専念させるために、**1588年**には**刀狩令**により、農民から武器を没収しました。さらに、**1591年**には**人掃令**を出して、武家奉公人が町人や農民になることや、農民が商人などになることを禁止しました。翌年には関白**豊臣秀次**のもと**人掃令**が全国的に実施され、**兵農分離**が進められていきました。人掃令は身分の固定化をすすめ、**身分統制令**の役割を果たしたのです。

秀吉は、当初キリスト教の布教を黙認していましたが、しだいにその教えが国家統一の妨げになると考えるようになり、**島津氏討伐**の帰りの**1587年**に**博多**で**バテレン追放令**を出しました。宣教師の**20日以内**の国外退去や布教を禁ずるのものでしたが、貿易は奨励されましたので不徹底に終わりました。他方で南蛮貿易を活発にするため、わが国の豪商の東アジア諸国への渡航を保護するとともに、**ゴア**の**ポルトガル政庁**、**ルソン**の**イスパニア政庁**、台湾などに国書を送って入貢を求めるなど、積極的かつ強硬な外交政策をとっています。

朝鮮に対しても、入貢と明征服の道案内を求めたが、応じなかったため、**肥前**の**名護屋**に本陣を築き、**1592年**と**1597年**の二度にわたって朝鮮に出兵しました。この出兵を**文禄の役**、**慶長の役**といい、朝鮮では**壬辰・丁酉の倭乱**と呼んでいます。しかし、膨大な兵員と戦費を費やした朝鮮侵略は、豊臣政権の支配力を急速に衰退させることになったのです。

安土桃山時代 間違いやすい漢字集

	正しい漢字	間違いやすい漢字		正しい漢字	間違いやすい漢字
H 1	東方見聞録	間・文／縁・禄	H26	賤ヶ岳の戦	静・賊・賤
H 2	種子島	根・ヶ	H27	長宗我部	宗・僧
H 3	大隅国	偶・隈・遇	H28	惣無事令	総・惣
H 4	種子島時堯	暁・焼・隆	H29	伊達政宗	正／宋・旨
H 5	国友村	伴・供	H30	大坂城	阪
H 6	南蛮貿易	蕃・恋・蚕	H31	正親町親王	大・新・扇
H 7	鹿児島	子・思	H32	聚楽第	従・衆
H 8	耶蘇会	邪・恥・阴／鮮	H33	後藤徳乗	得／垂・剩
H 9	大友義鎮	伴／議・重・茂	H34	太閤検地	大／閣・関・間
H10	遣欧使節	遣・鷗・央	H35/36	畝／斗	畝・畝／才・斗
H11	伊東	藤	H37	葛西	曷・萬
H12	千々石	岩・和	H38	刀狩令	埵・刈
H13	鉄炮記	砲・包・抱	H39	人掃令	埴・掃・埴・払
H14	喜望峰	善・嘉・希	H40	長束正家	東・塚
H15	倭寇	冠・寇・寇	H41	前田玄以	似・意
H16	斯波氏	柴・期・欺／馬	H42	宇喜多秀家	善・嘉
H17	清洲城	州・素	H43	京杵	増・杵
H18	桶狭間	涌・捕／峡・挟	H44/45	貫高／検地帳	慣・官／険・張
H19	天下布武	不・希／部・式	H46・47	播磨／分離	播・摩／籬・理
H20	足利義昭	議・良／明・照	H48/49	海賊／殉教	族・絨／洵・順
H21	顕如	煩・湿／叙・女	H50	壬辰の倭乱	任・振・申
H22	矢銭	屋・家	H51	名護屋	古・穫
H23	今川義元	議・吉／本・基	H52	李舜臣	委・季／瞬
H24	長篠の戦	篠・修・篠	H53	丁酉の倭乱	町・庁／酒・西
H25	安土宗論	宋・僧／倫・輸	H54	義兵	議・儀